

新総合体育館の建設進む



指定管理者決まる

ミズノ・安曇野市体協・A&Sグループ



振り返ってみれば平成二十八年に安曇野市新総合体育館整備基本計画(案)が示され、その後、市教育委員会は市民説明会を十一月二十日堀金公民館を皮切りに市内各地区で開催し市民からの意見聴取を行いました。

当時、建設計画に対し規模や費用面において市民から多くのご意見が出されました。そんな中において本協会では翌年二月に建設推進に関わる要望書を加盟団体のご協力と市民の皆様のご理解をいただき六八九二名の署名を添えて市長及び市議会議長に提出させていただきました。ご協力いただいた加盟団体や市民の皆様深く感謝申し上げます。

以前から本協会では新総合体育館の管理運営に何らかの形で関わっていきたいと思っていました。組織や体制面も含め管理運営のノウハウもありません。建設が進む中で(株)ミズノの担当者から来訪され、是非、本協会と共同で指定管理に加わりたいとの申し出がありました。(株)ミズノは全国で一七〇件のスポーツ施設の管理運営実績があり国内最大手の総合スポーツ企業で経営基盤も安定しています。ミズノにとっては多くのスポーツ愛好者で組織されている本協会が魅力であり本協会にとっても管理運営に携わる良い機会

となりました。構成員には、建物及び公園内の維持管理業務を行う松本市に本社を構え、現在塩尻市文化会館等県内で五十五施設のビルメンテナンスの実績がある(株)アシスト&ソリューションズ(以下A&S)が加わりました。

十一月に市教育委員会より指定管理者の公募が始まり、独自で体協加盟団体や市民の皆様のご協力をいただき開館時間、休館日、また指定管理者への要望等を対象にアンケートを実施し、二百十三名から回答をいただきました。以来、十二月二十四日の公募提出期限までの間、(株)ミズノ東京本社へ二度程足を運び、夕方遅くまで提案書の作成を行い、A&Sの事務所においては数回に及びリモートによる打ち合わせや議論を重ねて参りました。公募の提出期限前日の二十三日最終調整を行い、午後三社で安曇野市に提案書を出しました。

その後も、年が明けた一月十八日(月)に行われる審査会に向け、何度もプレゼンの打ち合わせをして、審査会には(株)ミズノ三名、A&Sと本協会各一名の計五名で臨みました。この度、指定管理者に選定されましたので、市民の皆様にご利用し易い施設運営を目指していきたいと思っております。皆様のご協力をお願いいたします。

四月一日に一般市民に開放される塩尻市総合体育館（ユメックスアリーナ）また、松本市総合体育館も指定管理者は同様に㈱ミズノです。昨年七月に中信四市スポーツ・体育協会協議会が設立されましたので（令和二年九月一日発行の体協だより第一九号に掲載）新総合体育館の運営に関しても松本・塩尻との連携が期待できると思います。

【新総合体育館の利用について】

既存体育館同様一時間ごとの料金設定とし、気軽に利用いただけるように配慮します。

専用利用では、分割利用（四分の一まで）での料金設定も加えることとし、サークルなど少人数での利用を促進します。また、アリーナにおいて、平日の日中に卓球・バドミントン等多様な種類のスポーツを予約なしで自由に参加することが出来る「個人開放事業」を導入し平日の稼働率向上に貢献します。具体的には、種目ごとにスケジュールを組み、体育館の個人料金を払えば、自由に参加してその種目を楽しんでいただけます。



また、トレーニングルームを独自に開設し、専門の指導員を配置します。利用者の「個別プログラムとその見直し」のアドバイスをを行い、目標達成と運動の継続をサポートします。



【サービスパログラム提供】

トレーニングルーム兼多目的室では、健康フィットネスプログラムをいつでも受講できるシステムを導入します。誰もが気軽に始められる健康運動として人気のヨガやエアロビクス等のフィットネス教室を定期的に開催し、市民の健康増進に貢献します。



【運動プログラムの提供】

多目的室に大画面のスクリーンを設置し、三十種類以上のプログラムを映像で実施します。会員はいつでもどのプログラムにも参加することができます。（トレーニング兼多目的室共通券も発行し、会員だけでなく都度利用者にも対応します。）



【地域をつなぐ賑わいづくり】

市の課題である「人口減少・少子高齢化への対応」を踏まえ、人々が集い、互いに交流できる機会や環境を創出します。人と人、地域をつなげる交流活動を促進するとともに広域的なスポーツ大会や合宿、スポーツに限定しない交流イベント等を積極的に誘致開催することで、地域活性化に寄与する管理運営を行います。

【「健康長寿」市民の心と体の健康づくりに貢献】

スポーツやレクリエーションをはじめめるきっかけ・機会を幅広く創出し、市民一人ひとりが心豊かに生きがいのある充実した生活を営み、市民の心と体の健康づくりに貢献します。



【「安全・安心」地域との連携・防災拠点としての役割に貢献】

日頃からの訓練や市や関係機関との連携体制を整備し、平時・緊急時・災害時、もしもの時も市民のよりどころとなる快適・安全・安心な生活拠点をつくります。

市・各関係団体等地域との積極的な連携を図り、市民の暮らしを守る防災拠点として、被災時には地域と連携し、避難所として活用できる施設とします。

安曇野市では、平成三十年の第二次安曇野市スポーツ推進計画において、現状安曇野市が抱える課題を抽出しその対策に向け様々な取組みを打ち出されています。これらの課題を解決するためにも、新総合体育館の指定管理者としての役割は大変重要になってくると認識しており、当グループとして本施設での対策を立案してまいります。

令和二年度

第11回

安曇野市スポーツ祭報告

種目別競技会

五競技を開催

新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見極めつつ、感染拡大防止対策を十分に行った上で、五種目の競技会が開催されました。参加者のコロナウイルスに対する理解と協力が後押しされ、役員の皆さんの並々な努力が開催につながったものと思います。

種目別競技会は全十七種目が予定されていましたが、中止となった十二競技会実施の時期が、コロナ感染拡大の第三波の最中という事もありどうしても開催することができませんでした。



10月4日 **バドミントン競技会** 三郷文化公園体育館



10月18日 **軟式野球競技会** 県民豊科運動広場、堀金総合運動場



10月11日 **柔道競技会** 豊科武道館柔道場



12月13日 **卓球競技会** 穂高総合体育館



10月22日 **ゲートボール競技会** 堀金常念ドーム



コロナ禍という事もあり、一部実技で実施できないものもありましたが、講師の丁寧な説明で理解することができました。

十一月十四日(土)午後一時から三時間、堀金公民館講堂を会場として開催しました。講師は松本広域消防局の豊科消防署職員三名をお願いし、心肺蘇生法やAEDの使用法を学びました。この講習会は安曇野市体育協会生涯スポーツサークル連合が主催する事業ですが、今までは内容の一部を短縮した講習でした。昨年度から三時間の正規講習会として実施したことで、参加者全員が「普通救命講習終了証」をいただくことができました。

普通救命講習会開催

令和二年度 安曇野市スポーツ指導者講習会

子ども達がスポーツに打ち込むためには、身近な人たちの理解・協力がどうしても必要です。スポーツを支えていただいている参加者向けに「奥原秀子先生」をお迎えし、令和三年三月二日（火）安曇野市役所本庁舎四階会議室において指導者講習会を開催しました。

講師紹介

奥原 秀子 先生

（大町市八坂小学校 栄養教諭）

夏のオリンピックで長野県初のメダリスト、バドミントン「奥原希望選手」のお母さん。現在は栄養教諭として学校給食の管理や食育に携わる。

「夢をかなえるために」～奥原希望の姿から～をテーマに次を柱にお話をいただきました。

● 基本的なスポーツ栄養のところでは、基礎体力を支える三本の柱は「運動」「食事」「休養」であり、このバランスが大切。練習や試合後にはなるべく早く食事をとることが疲労回復スピードを速めることでした。また、アスリートの糖質不足を補うには器を大きくしてでもご飯を山盛り食べること。お菓子などは砂糖や油脂が多く、糖質補給には効果的ではないと話されました。

● 強くなるために希望選手が小さい時から行っていたこととして、①朝食は必ず食べる、②夜十時（九時）には寝る。③好き嫌いはしない（食べ物に限らず

べてに對して）。この三ヶ条を家族も協力して守る努力をつづけてきたとのことでした。

● 希望選手が歩んできた道のところでは、バドミントンにはまっていたきっかけは父親が高校のバドミントンクラブ副顧問で、小学一年生のころから体育館に連れて行ってもらった。小学二年の全国大会で二次には進めなかったものの、予選リーグ一位。小学四年では全国三位、小学六年で全国準優勝、秋のアジアユースでは優勝する。順調に力を伸ばしてきた頃、世界で活躍する選手になりたいてと考えるようになったとのこと。中学二年で全国優勝、大町市仁科台中学校を卒業し、埼玉県の大宮東高校に進学。高校二年の時に史上最年少で全日本を制する。高校卒業後バドミントンはオールシーズンの競技という事もあり、合宿や国際大会等で遠征が多く授業に出られない、入学しても卒業できないと考え、実業団入りを決意、併せて通信制大学で学ぶ道を選択、バドミントンの選手では他に例がない道を最後まで成し遂げる。オフのない競技、本人も大変だったと話してくれたそうです。実業団は会社が全部面倒を見てくれるメリットはあるものの、会社の為に大会に出なくてはならず、体が悲鳴をあげた。ケガ等リスクも増す。二度の手術の経験から、自分が出たいと決めた大会にだけ出られる環境に進むにはプロへの転向だと信じてプロの道を選択した。

● 希望選手の姿を見ていて思ったこと考えさせられたとして

● 達成できそうな目標を見つけて、そこに向かう努力は決して裏切らないもの

● 常にイメージする訓練が大切

● 言われなくても頑張れる子には意識して休みをとるよう心掛けること

● 子どもの姿をみて親も襟を正す

● 目を離さず、決してあせらず子供を見守る

● 親も子どもの言葉から生き方を学ぶ等

を語られ、希望選手と共に力強く歩んでいるご両親に心が洗われる思いでした。

最後に、本人に期待することとして「感謝の気持ち」「バドミントンのメジャー化」「社会貢献」の三つを上げ、忘れずに歩みが続けてほしいと、お母さん自身が自分に言い聞かせるように話されていたことが印象的でした。



スポーツ少年団

令和二年度 優秀団員

コロナ禍、閉講式は中止しました。優秀団員の表彰式のみを令和三年三月十三日（土）堀金総合体育館サブアリーナで開催。模範となって活動し単位団より推薦された二十五名に本部長より賞状が贈られました。表彰された皆さんを敬称略、順不同で紹介いたします。

- 熊井和真（三郷ラグビースクール）
- 竹内 栞（穂高キッズバレーボールクラブ）
- 井口瑛太（三郷少年空手クラブ）
- 小林慈英（楽動隊）
- 鳥羽遥人（豊科少年硬式野球協会）
- 佐藤優花（豊科JVC）
- 田口真以（穂高卓球研究会）
- 木村遙太（明科剣道）
- 小池勇翔（豊科ソフトテニス）
- 石田颯俐（穂高ミニバスケットボールクラブ）
- 高山智春（穂高剣道）
- 須澤泉天（真武館）
- 久保田純貴（豊科卓球）
- 太田 芹（ソフトテニスあづみ野クラブ）
- 望月博昭（豊科空手道）
- 羽田野壮吾（安曇野市乗馬）
- 山崎陽向（明科サッカー）
- 堀内奈苗（明科空手）
- 小林実桜（夢未来「対山館」AZUMINO）
- 小澤大佳彦（明科少年野球クラブ）
- 那須珂音（豊科剣道）
- 森内鳳葵（豊科ミニバスケット）
- 宮澤 快（三郷サッカー）
- 塚田哲平（アルフット安曇野）
- 中村千織（穂高ジュニアピクサーズサークル）